

令和7年11月25日 令和7年度第3回県立学校長会 大石教育長挨拶

先週、三宅小学校で開催された「総合的な学習の時間」研究協議会の近畿大会にお邪魔しました。身近な題材を基に、児童に気付きや試行錯誤をする機会を与え、先生方は答えではなく示唆を与えるお取組は、大変勉強になりました。また、ひと月程前になりますが、第69回奈良県へき地教育研究振興大会が十津川村で開催され、出席しました。中学生の発表に、地元に伝わる大踊りの、参加者を交えた演示があり、私も参加しました。振り付け等中学生に教わるのですが、全く分からぬことを教わる心細さ、うまくできないもどかしさを味わうとともに、教えることの難しさを改めて考えさせられました。振り付けを書いた紙を見せて説明してくれる生徒、横に立って手本を示してくれる生徒、教え方は様々ですが、教わる立場になると、これは分かりやすいとか、もっとこうしてくれたら分かりやすいのにななどと思ったりします。教員もたまには教わる立場を経験することでよい指導へのヒントを得られるように思います。不器用で踊りの下手な私が最後まで投げ出さずに済んだのは、生徒の「できますよ」「上手ですよ」といった励ましの声によるものです。ギリシャ神話では、セイレーンの褒め称える歌を聴いた人がダメになりますが、学びはじめの我々のような者は褒められ、励まされることで頑張ることができるのだと、よい経験をさせていただきました。

高校の先生方も、小学校、中学校でこのような学びを経て入学してくるのだと知っておくのはよいことだと思います。特に小学校の学びはかなり進んでいると感じます。

県立学校にも順次お邪魔しています。お忙しい中、御対応いただき、ありがとうございます。生徒が元気な様子だとうれしくなりますね。特別支援学校では、小学部から高等部へと、子どもたちができることをどんどん増やしながら成長している様子を拝見しました。いくつかの高校では食堂の前で、「からあげ食べます?」「アイス食べます?」と生徒から声を掛けてもらいました。余程もの欲しそうに見えたのかと反省しています。

今回は「おもしろい授業」を拝見したいというオーダーをさせていただきました。学校の魅力として欠かせないのは、最も多くの時間を占める授業、それも「よい授業」です。では「よい授業」とはどのような授業か。私が校長を務めた学校では、生徒が教員の授業を評価する仕組みがありました。その評価項目が教育実習生のもののようにたくさんあったのを、「おもしろい」と「よく分かる」に絞りました。中でも「おもしろい授業」が「分かる授業」よりも上位にあると私は考えており、授業を拝見するに当たり、受けている生徒の様子も楽しみにしていますが、校長先生方が「おもしろい」という言葉をどのように捉えていらっしゃるか、という点も関心事です。

まだお邪魔していない学校がある中で言うのも何ですが、そもそも「おもしろし」という語は「おも」が「面前」を、「しろし」または「しるし」がそれぞれ「ぱっと明るい状態」、「はっきり見える状

態」を意味し、目の前が明るく心が晴れやかになるような感情を表します。視覚的な美しさや感動に対して使われることが多く、何かに気付いたり、「なるほど」と思ったりしたときに出る言葉です。

気付きがある「おもしろい授業」では、生徒の頭の中は活発に動いている状態にあると思います。授業者が、豊富な知識の上に十分な準備をし、工夫することで、例えば大学等に進学した際に出会うであろう学問の、ほのかな香りを嗅ぐことで興味が広がる、あるいは社会に出たときに学習内容がどのように生かされるのかが見えて意欲が湧くなど、生徒の主体的に学ぶ姿勢にもつながるものと考えます。

今回、拝見した授業の多くは若手の先生方のものでしたが、大変工夫された授業、情報端末を効果的に用いた授業も多く、一部、御紹介します。ある学校では、数学の授業で演習を行う際、教室を前後 3 分割し、最前列は理解に不安があり教員と一緒に問題を解きたいグループ、中頃は友達と複数で解きたいグループ、最後列は1人で解きたいグループとして、生徒に席を選ばせていました。個別最適と言いますか、協働的と言いますか、生徒全員が主体的に活動していました。またある学校の英語の授業では、アプリを用いて個別に英文や発音のチェックを行い、画面表示から改善点を考えさせて個々の向上を図っていましたし、地理の授業では同じ位置の現在と過去とを見ることのできるアプリを用いて、町の変遷からその背景を考えさせていました。いずれも生徒に興味をもたせ、考えさせる、素晴らしい授業だと思います。

チョークアンドトークと揶揄される授業が必ずしもダメだとも思いません。興味深い内容、巧みな話術で相手を惹き付けるもので、生徒の頭が活動しているのであれば素晴らしい授業になります。例えば名人と言われるような噺家はその話芸で客に情景を思い描かせ、その情緒を動かしますが、聴く人が頭で描いた情景は、映像で見るよりも豊かとも言えるでしょう。高名な評論家の小林秀雄氏は講演も大切にされ、その語り口が昭和の名人古今亭志ん生にそっくりだと言われますが、氏が志ん生のテープを何度も聴いていたという話を読んだことがあります。内容が素晴らしいとしても、聴かせる努力を更になさっていたのでしょうか、いずれにせよ、授業をよくするにも努力が必要です。福岡県立修猷館高校では、質の高い授業を行うために、「年間聴講制度」という、教員が他の教員の授業を生徒と一緒に 1 年間受ける取組をされています。本県中学生を対象に実施したアンケートでは、期待する高校での学びの1位が「中学校の学習内容を発展させ、幅広い知識や教養を身に付けることができる学び」であるという結果が出ており、他府県の学校の取組も参考にしながら、各学校が実情に応じた授業改善に取り組んでいただきたいと思います。

10 月7日に経済協力開発機構(OECD)が公表した、2024 年「国際教員指導環境調査」の結果を見ますと、「教えているときにしばしば幸せを感じる」、「熱意をもって教えている」、「教えることの面白さややりがいに満足」と回答した日本の教員は 90% 前後であり、国際平均より高くなっています。授業や学級経営が比較的うまく進んでいる教員の満足度は高いが、授業や学級

経営につまずいたとき、周りからはあまり助けてもらえず、子どもとの関係もうまくいかない、保護者との関係も悪化すると職務満足度が悪化し、ストレスを抱える教員もいるということになります。管理職の先生方の関わりも大事だと考えます。

ついでながら、先ほど申した、本県中学生を対象にしたアンケート結果では高校を選ぶ際、環境等で重視するのは、「学校の雰囲気」が圧倒的に多く、「交通の便や立地」「施設設備の充実」を大きく上回っており、その情報の入手先は「家族・先輩・友人・知人」が上位となっています。このことも踏まえ、各校での取組を進めつつ、アピールもお願いします。

今年度も3分の2を終え、仕上げの時期に入ります。年度当初お任せした学校に、校長として何を為そうとしていたのか、改めて思い起こしていただき、よい仕上げをお願いします。